

日本東亞同文書院編

(第三十一冊)

中國省別全志

綫裝書局

第三十一冊

第十六卷 貴州省（一）大正九年 一九二〇年 東亞同文會……………一

第十六卷

貴

州

省

(一)

大正九年

一九二〇年

東亞同文會

東亞同文會編纂發行

文邦省別全誌

第十六卷

貴州省



媚明子何

支那省別全誌序

大ナル哉亞細亞面積一千七百萬方哩生民ノ數十億ヲ算ス而シテ其多クハ制ヲ歐洲ニ受ケ獨立國ノ實ヲ存スル者只日支兩國アルノミ豈ニ慨嘆ニ堪ユヘケンヤ然リト雖モ盛衰ノ運ハ循環シテ極マルコト無シ日支兩國提携發憤シ以テ文化ノ發達ニ努力セハ亞細亞ノ興隆ヲ復活スルコト必スシモ望ナキニ非ス兩國ノ責任亦輕カラスト云フヘシ

惟フニ日支兩國ハ數千年來親交ノ歴史ヲ有シ其國家ハ唇齒輔車ノ關係アリ其人民ハ同文ニシテ同種タリ相依リ相援ケテ共ニ與ニ文明富強ノ域ニ進マサル可カラサルヤ固ヨリ論ナシ我東亞同文會ノ起ルヤ其目的實ニ東亞ノ大勢ニ鑑ミ

兩國ノ交誼ヲ厚クシ相互ノ福利ヲ増進シ以テ東亞ノ隆運ヲ促進シ以テ世界文明ノ進歩ニ資セントスルニアリ而シテ其創立以來兩國縉紳ノ交際子弟ノ教育貿易ノ獎勵政治經濟ノ調査等ニ全力ヲ傾注ス上海東亞同文書院ノ設立モ亦實ニ其事業ノ一二居ル

上海東亞同文書院ノ創立ハ明治三十三年ニ在リ今ニ至ル迄年ヲ閱スルコト十有八載其間我國各府縣ヨリ俊秀ヲ選拔シテ上海ニ送り薰陶教育シタル者既ニ一千ニ垂ントス而シテ毎歲夏秋ノ候學生ノ將サニ卒業セントスル者ヲ支那全土ニ派遣シテ其形勢ヲ調査考察セシメ山川城邑人情風俗ヨリ物資ノ豊凶交通ノ便否ニ至ル迄細大漏ラス所ナク北ハ黃河ヲ踰エテ陰山ヲ渡リ西ハ秦蜀峨眉ノ峯ヲ攀チ南ハ滇粵苗獠

ノ野ヲ踏ミ勇往邁進櫛風沐雨足跡殆ト全省ニ偏ク報告ノ稿
本積ンテ二十萬頁ノ多キニ達ス本書ハ實ニ此ノ稿ノ要ヲ提
シ新ヲ加ヘ修訂シタル所ニ係ル

抑モ支那ハ古來地理書ニ於テ備ハレル國ナリ上代ニ禹貢
アリ漢ニ水經アリ歷代ノ史書亦地理史ヲ載ス降リテ太平寰
宇記大明大清ノ一統志等浩瀚ナル書籍舉ケテ數フヘカラス
然レ共近世ニ至リテハ完全ノ著述ナク殊ニ現在ノ形勢ヲ記
録スルノ書ニ乏シ是レ實ニ内外人士ノ均シク遺憾トスル所
ナリ

本會ノ本書ヲ編スル此闕漏ヲ補ヒ聊カ支那研究ノ便ヲ圖
リ以テ方今ノ急務ニ應セントスルニ外ナラス若シ夫レ其ノ
大成ニ至リデハ將ニ之ヲ他日ニ期セント欲ス

惟フニ政治經濟其他百般ノ經世的施設ハ其基ク所一二國
土人民ノ形勢ヲ審ニスルニ在リ地理書ノ必要實ニ茲ニ存ス
此ノ書若シ幸ニ日支兩國ノ親善ニ資シ東亞文運ノ進步ニ益
スルアラハ吾人ノ欣幸焉レニ如クハナシ

大正六年三月

東亞同文會幹事長 小川平吉

支那省別全誌序

禹貢九州ノ域九塞九澤八風六水會稽ノ竹箭梁山ノ犀象華
山ノ金石霍山ノ珠玉幽都ノ節角斥山ノ文皮ヨリ以テ岱嶽ノ
五穀桑麻魚鹽ニ及ヒ正德利用厚生ハ乃チ政治ノ三大綱ニシ
テ三禮九經以テ之ヲ實施ス往古ヨリ人文開明百物豐饒黃帝
以來五千年民物ノ盛滋盛ヲ加フ清朝ノ統宇ニ至リ八殞ヲ併
セ八紘ヲ吞ム夏滿蒙藏地ノ廣キ四百萬方哩人ノ多キ四億萬
長江ノ水域八十萬方哩乃チ之カ大動脈タリ天下ノ寶藏孰レ
カ能ク之ニ比駢スルモノアラシヤ而モ地表農產力ハ進ンテ
其倍額ノ收穫ニ達シ得ルノ餘裕ヲ存シ地中五金ノ博厚無限
ナル今尙措テ顧ミサルノ狀ニアリ異日鐵路縱橫千里咫尺ノ

時機ニ至ラバ其富源ノ發暢實ニ世界ヲ驚カスモノアリ而シテ列強經濟經營ノ聯驕角逐場タルヘキハ今ヨリ足ヲ翹ケテ俟ツヘキナリ

我邦ノ支那ニ於ケル其政治經濟上特種重要緊密ノ關係アル更ニ喋々ヲ待タス況ンヤ歐戰終熄後支那ノ世界問題ノ中心タルヘキ曉ニ想到スルニ於テヲヤ我國人タルモノ須ラク早キニ及ンテ支那ノ國情民物ヲ熟了シ深謀遠慮事々其善後ヲ未然ニ策スルノ用意ナクシテ可ナランヤ語ニ曰ク凡事不豫則不成ト又曰ク未雨綢繆牖戶ト而シテ事物ノ經理運用ハ先ツ彼ヲ知り己ヲ知ルヲ本トス敵ヲ見テ矢ヲ矧キ盜ヲ捕ヘテ繩ヲ絢フハ固ヨリ智者ノ事ニ非ス然ラハ則チ今日支那ノ國情民物ヲ講明スル是レ豈ニ我國人ノ一大急務ニ非スヤ獨

リ憾ムラクハ特ニ國情ノ複雑民物ノ繁錯ナル支那ニ對シ之
カ研鑽ニ資スヘキ良書ノ乏シキヲ是レ一葦帶水ノ比隣ニ位
置シ居ルニ拘ラス我邦人士ノ支那ノ情僞ニ精通徹底セル者
甚タ鮮キ所以ナリ

弊院夙ニ焉ニ慨スルアリ敢テ自ラ揣ラス支那ノ地理氣候
人情風俗物產ヨリ以テ政治經濟教育軍事ニ至リ細大之ヲ討
究闡明シ以テ世人ノ對支研究ニ資スルアラント企圖シ明治
四十年ヨリ起リ茲ニ十星霜每歲卒業期ニ達セル約百名ノ學
生ヲ十數斑ニ分チ四月有餘ノ日子ヲ費シ如上各項ノ問題ヲ
齎ラシテ深ク二十二省及内蒙ノ境域ヲ跋涉シ實地仔細ニ研
究セシム其間櫛風沐雨苦心慘憺或ハ數日自炊露宿シ或ハ幾
天更ニ飲料ヲ得サル或ハ革命ノ戰間ヲ彷徨スルアリ或ハ汎

濫淹溺ニ遇フアリ或ハ土匪郷棍ノ包圍スル所トナリ或ハ獠
苗瘴癘ノ境ニ陷ルカ如キ其危險辛艱到底世人想像シ能ハサ
ル所而シテ貲ヲ投スルコト約二十萬金人ヲ用ユルコト一千
人其ノ調査報告書今ヤ積リテ無慮二十餘萬頁ノ多キニ達ス
ルヲ得タリ茲ニ我同文會ニ於テ之ニ就キ一大編纂ヲ籌畫シ
其粹ヲ取り要ヲ拔キ以テ支那省別全誌ト名ケ梓ニ上セテ之
ヲ世ニ公ニス惟フニ此書一タビ出ツ其世ノ對支研究者ニ於
ケル必ス霧海ノ南針夜途ノ北斗タルヘキヲ疑ハサル也

大正六年三月

東亞同文書院長 根 津 一 撰

凡例

一、本書は其資料を主として上海東亞同文書院各期學生の實地調査報告に採る其旅行班次の如し。

明治四十一年 第六期生 沅貴班

明治四十二年 第七期生 桂黔班

大正三年 第十二期生 貴州班

大正四年 第十三期生 湖南經過班

大正五年 第十五期生 貴州第一班同第二班

一、本書の編纂は山崎長吉主として之に當り、松本良男、清水董三以下各員其各部を擔當して稿を成せり。

一、本書に用ゐたる支那貨幣は金銀の相場其他種々の事情に由り我國貨幣と比價を定め難し、今其の大體の比較を次に示す。

一元

(又は一弗と云ふ)

我が

一圓内外

凡 例

半元

(又は五毫五毛
五角と云ふ)

我が

五十銭内外

双毫

(双毛又二毛
二角と云ふ)

我が

二十銭内外

半毫

(半毛と
いふ)

我が

十銭内外

仙又は分

(當十銅元一個
又十文と云ふ)

我が

一銭内外

文

(制錢一個又は
銅元に付云ふ)

我が

一厘内外

海關兩の一年平均比價を示せば次の如し。

一九一〇年	二志八片十六分の十五	我が	一圓三四
一九一一年	二志八片四分の二	我が	一圓三二
一九一二年	二志〇片八分の五	我が	一圓四九
一九一三年	二志〇片四分の一	我が	一圓四七
一九一四年	二志八片四分の三	我が	一圓三三
一九一五年	二志七片八分の一	我が	一圓二五
一九一六年	三志三片十六分の十三	我が	一圓五四
一九一七年	四志三片十六分の十三	我が	一圓九八